

## 課題名 ガウディが設計した住宅建築の立面の分析

指導教員 中西章

### 研究の目的

ガウディが設計した建築は、不思議な色、形によって幻想的な空間と装飾物を特徴としている。そのような建築がどのように形成されていったのかを知るため、ガウディが設計した建築の中で集合住宅の立面を対象としてその変化の過程を明らかにすることを目的とする。

### 研究の方法

ガウディの設計した建築物の立面図を基にして、立面を構成する窓、壁面、輪郭などの部分ごとにその形状や配置、窓の数などを分析して年代ごとにどのように立面の特徴が変化していったのかを調べる。

### 研究対象

ガウディが設計した集合住宅を主とする5つの建築物。分析した住宅は古いものから順にパラシオ・グエル、カサ・デ・ロス・ボディネス、カサ・カルベ、カサ・バトリョ、カサ・ミラの順である。建築年代は1889年～1910年、所在地はすべてバルセロナである。

### 考察

#### 窓の枚数と形について

表1 曲線を含む窓の割合

	パラシオ・グエル (1886~1889年)	カサ・デ・ロス・ボディネス (1891~1892年)	カサ・カルベ (1898~1900年)	カサ・バトリョ (1904~1906年)	カサ・ミラ (1905~1910年)
窓の枚数	45	50	20	21	158
曲線を含む	0	0	1	7	158
割合	0%	0%	5%	33%	100%

最初に窓の枚数で立面を分析した。まず、対象とした集合住宅の窓の枚数とそこに曲線を含むものの枚数を数え、曲線を含む窓の割合を計算しまとめたものが表1である。この表から年代が新しくなるにつれて窓枠に曲線を使う割合が多くなっていることが分かった。またその割合が急激に変化したのが、カサ・カルベ、カサ・バトリョ、カサ・ミラのあることが表からわかる。

#### 立面の要素について

次に、様々な立面の要素の変化について表にまとめた。立面の要素は表2のとおりである。この表からは立面そのものの要素は、年代が新しくなるにつれて規則性が失われている

ることが分かる。その変化は主にカサ・カルベ、カサ・バトリヨの間に現れていた。しかし横の窓の配置、ベランダの配置、装飾ではカサ・バトリヨ、カサ・ミラの間で現れている。立面の輪郭においてはパラシオ・グエル、カサ・カルベ間で直線的なものから、幾何学的な曲線になり、カサ・カルベからカサ・バトリヨになると、さらに規則性がなくなり、より自由な形で表現されていることが分かる。また、縦の窓の配置、窓の形においての変化の境目は建物の間ではなくカサ・バトリヨ自体で立面の一部が不規則になるという形で現れていた。そのような中で装飾に関しては彫刻などの附属物からカサ・バトリヨになると模様が壁面そのものに埋め込まれるようになり、カサ・ミラでは装飾そのものがなくなっている。これに対し、壁面そのものの形はカサ・バトリヨからカサ・ミラになるにつれて平面から曲面になっていた。すなわち表現方法が壁面に付け加えられた装飾から建物の形そのものによって変わっていったことが分かる。

表2 立面の要素

	パラシオ・グエル (1886~1889年)	カサ・デ・ロス・ボディネス (1891~1892年)	カサ・カルベ (1898~1900年)	カサ・バトリヨ (1904~1906年)	カサ・ミラ (1905~1910年)
窓の配置 縦	不規則	三角	整列	下半、不規則	不規則
窓の配置 横	対称	対称	対称	対称	不規則
窓の形	長方形	五角形	長方形	長方形、楕円	曲線
手すり	普通	無	円弧	植物	植物
ベランダ配置	対称	無	対称	対照	不規則
屋根の形	水平	水平	水平	曲面	曲面 屋上
立面の輪郭	折れ線(直線)	三角形(直線)	円弧を含む	曲線	曲線
壁面の形	平面	平面	平面	曲面を含む	曲面
装飾	彫刻 煉瓦	タイル	彫刻 煉瓦	壁の斑点	無

### まとめ

ガウディの集合住宅は新しくなるにつれて規則性がなくなっている。また外観を表現する方法が装飾などの附属物から壁面そのものの形を変化させることによる表現に変わってきていたことが分かった。それらの変化はカサ・カルベ、カサ・バトリヨの間に大きく起こっている。しかし、それ以外の年代で変化が起こっているもの、細かく段階を踏んで変化しているものや、建物そのものに変化が起こっている例外的な要素も見受けられた。

### 参考文献

- ファン・バセゴダ・ノネール『ガウディの作品—芸術と建築』六曜社、1985年  
田中裕也『ガウディの建築実測図集』彰国社、1987年